

賀茂縣主だより



発行所
〒603-8047
京都市北区
上賀茂本山339
賀茂別雷神社内
財団法人
賀茂縣主
同族会

復刊のご挨拶

理事長 西池 成晃

春暖の候 皆様ご健勝でお過ごしのことと
拝察申し上げます。

本年から広報紙「賀茂縣主だより」を復刊
します。

編集者の一人である小生の健康に回復の
めどがついたことと広報チームに若い会員の参
加が得られたのを機に編集活動を再開し、



最近の片岡社。
縁結びの神として若者から大変人気の高い神と
なりつつあります。

紙面も従来のものよりも一層充実させたいと
思っています。

会務を進めるなかで、広報紙の重要さを
痛感する出来事がしばしば生じ、また会員の
方々から復刊の強い要望も頂くたびに身のも
どかしさを感じて参りました。

休刊中に本財団として実施した主な事業
としては平成十九年十一月十七日に「遠祖
在實千年祭」(祖先祭例祭を併催)を齋行
出来たことであります(詳細は別掲)。

当日会場の国立京都国際会館に遠祖在
實命の御霊をお迎えし、会員と家族一四八
人の参列を得、また外部からは賀茂社並びに
賀茂県主(賀茂氏)に関係深い神社の宮司や
社家の方々、関係学会の権威、文教関係官
庁の幹部職員の方々など三十九人のご列席
を得ました。

平安雅楽会により賀茂御神楽の一曲「早
韓神」を人長舞で奉納いたし、またわが国の
歴史学会の泰斗京都大学名誉教授大山喬
平博士による「賀茂く日本の神と歴史学」と
題する講演をいただくなど賀茂県主本来の
姿を偲ぶに相応しい厳かにして盛大な千年祭
となりました。これは在實千年祭特別委員

会の方々の献身的ご努力の賜物であり本紙
面を借りてとくにお礼を申し上げたいと思
います。

願わくは次の千百年祭にも「賀茂」本来の
伝承文化を調査研究され奉納していただく
ことを望みます。

次に、昨年NHKの番組「人と神の出会い
く京都葵祭」の製作に協力しその番組が全
国放映されたことです。

常々同族会は主体性の確立を目指し活動
してきましたがNHKの注目するところとなり
同族会宛番組の製作協力を求めてきたもの
です。これは賀茂社への神事奉仕を主な内容
とする番組でしたが平成二十一年七月二十
日約一時間に亘り全国放映されました。

これにより同族会名はもとよりその活動内
容までもが公的メディアにより全国に周知さ
れたこととなり大変喜ばしいことあります。

ご承知のように現在賀茂社では平成二十
七年に齋行されます第四十二回式年遷宮の
奉賛活動を展開中であります。賀茂県主の
根源は賀茂社であることからしても各位の結
束と熱意で奉賛の実を挙げ賀茂社との結合
を本来的な強固なものに回復いたしたく思
います。

宜しくお願い申し上げます。

最後にあたり皆様のご多幸を祈ります。

平成二十二年度活動方針

- (1) 会員の結束を強め同族会の主体性を強化する。
 - (2) 現行活動を一層活発化し組織的能力増による諸課題を解決する。
 - (3) 賀茂社との連携（とくに遷宮）を強化する。
 - (4) 新公益法人法への発展的対応。
 - (5) 熱意ある会員増を図る。
- ### 具体的活動
- (1) 賀茂文化勉強会の一層の拡充。
 - (2) 祖先の事跡顕彰により賀茂地域の文化的価値の向上に資する。
 - (3) 地元文化活動へ積極的に参加する。
 - (4) 神山・社叢を守る活動の拡充。
 - (5) IT活用による遠隔要因の排除と活動の広域化。それによる全員参加型同族会への前進（特にメーリングリスト方式やスカイプ方式でヤングの吸収）
 - (6) 遷宮祭奉賛への積極的協力とフォロー。支出費用の合理化。
 - (7) 新法人組織形態の探索と選定。
 - (8) シニア会員の積極参加。
 - (9) 有資格未会員の入会推進。
 - (10) 未成年者（新出生者を含む）の登録制の新設と実行。

在実公千年祭

遠祖在実公千年祭実行委員長 梅辻 諄

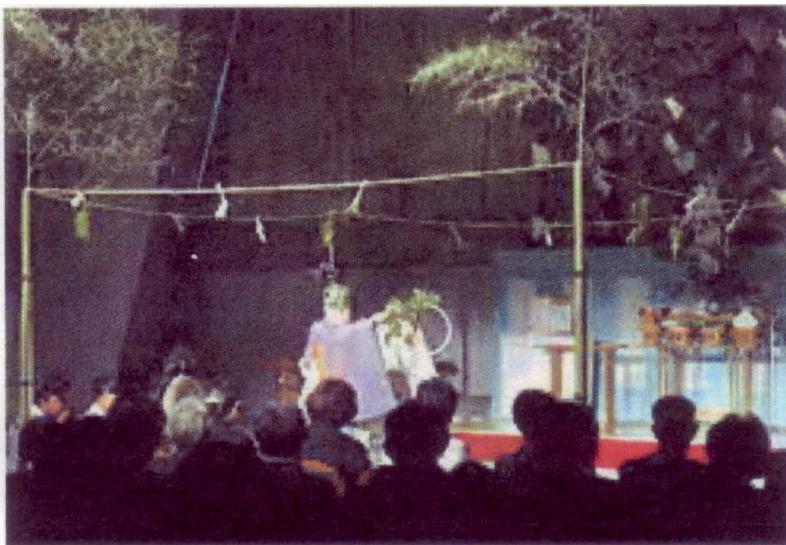
平成十九年十一月十七日に京都国際会館で行われた「遠祖在実公千年祭」はわれわれ賀茂県主同族会にとつてまさに画期的な行事でありました。明治の頃に行われた「九百年祭」は祖先が神社からの縁を離れて、次第に各地へと散り散りになりつつある時に、今一度同族の絆を確認しようという熱意をこめて行われたと思います。この「千年祭」も、ますます複雑になって行く現代社会の中に埋没することなく、前回にも増して同族の強い絆を構築するために、前と同じ思いで行われ、ある程度の成功を収めたと感じています。

この祭典の白眉（はくび）は京都雅楽会による「早韓神（はやからかみ）」の曲と人長舞（にんじょうまい）の荘厳な賀茂御神楽（みかぐら）であり、また、大山喬平教授の講演「賀茂・日本の神と歴史学」でありました。その昔、明治以前には上賀茂神社で祭儀のたびにこの御神楽が行われていたことを思うと、国家神道となつて全国の神社の祭典が画一化され、神楽も廃止されたのは大きい文化的な損失であつたと改めて感じます。昔の祭典は現代よりもっと楽しく、華やかで人々に強い感銘を与えたことでしょう。

大山教授は講演の中で、神道とその崇敬者に心強いエールを送られました。「古事記」や「日本書紀」に登場する表（おもて）の神様でなくても、また、深遠な哲理に支えられた神様でなくても、人々が日々の祈りを捧げ、生活の心の拠り所となつた神様であつたこと、それは教義や神学を乗り越えた信仰の原点とも云うべ

き神様であつたことを指摘されました。「ありがたくて」「もったいない」恩寵を与えるが一方で、「ばちをあてる」存在である神様は、現代の社会に最も必要な神様かも知れません。大山教授の素晴らしい講義の講演録は別刷がまだ残っていますので、必要な方はお知らせください。

「直会」では多くの来賓の皆様から心暖まる励ましのお言葉を頂きました。われわれは今後それを旨とし、祖先の業績を顕彰し、残された文化を発展させ発信したいと考えます。そして、願わくば、百年後に「在実公千百年祭」が曾孫、曾々孫たちにより催行されることを。



葵祭の所役（奉行属）を奉仕して

山本 武久

この度、風雅な王朝絵巻に奉行属として奉仕することになり、さてどのようなことをするのか習礼の日を待った。

習礼当日は雨降りとなり、御所から下鴨神社、そして上賀茂神社へと順次祭りの流れの説明がなされたのであるが、十分に奉仕の手順が良く聞けないままに終わった。

さて、祭り当日は快晴となった。

御所に早朝の集合である。

早速奉行属の衣装に着替えさせてもらい、皆の着替えを待つ。

周りを見てみると御所車や女人の姿がなんと艶やかな雰囲気を漂わせている。

まるで夢の中のような風景だ。しばらく見とれていると進発が近づき、所役の集合写真撮影があり、奉行と共に御車寄せの胡床につくと「進発の儀」が行はれ、同族会の乗尻の出仕報告に続いて順次宣秋門外に列立が行われた。



すると我々は車にて列見所へ移動し着座する。観覧席は人々である。

青空の下、列の先頭が動き始め、蹄の音や牛車のきしむ音が聞こえてきて、列はこちらへ一揖の上通過して行く。

やがて最後尾の女人列が華やかに通過すると再び我々は車に戻り、下鴨神社へ向かった。

過去には私も葵祭りは見てきたが、このような特別席で列の初めから終わりまで全てをゆつくりと見ることはなかったので、この祭りに参加できたことに大変感動を覚えた次第である。

下鴨神社ではしばらく列が到着するのを待つ。

行列が参着し勅使が幄舎にお入りになると、神職の申し出を受け「勅使三審促し」をするのであるが、このときは奉行属一人が参道を歩くことになるので、大変面映い思いであった。

さて昼食が済んで再び車にて上賀茂神社へ向かう。

ここではかなり長い時間行列待ちになる。

そのうち列が到着し、勅使が参道席に着かれた。再び、下鴨神社と同じく参進促しを行う。

上賀茂神社の場合は下鴨神社の参道より少し長く、また砂利が深いので歩くのが大変であった。社頭の儀も進行し、最後に乗尻の走馬が行われて、賀茂祭は終わった。

今日は早くから、一日中衣装を着ていることは大変しんどいことではあったが、華麗かつ厳粛な王朝絵巻の一端に触れ、古の夢の世界にタイムスリップした一日であった。

賀茂祭の未来永劫傳承されることを祈る。

競馬委員会より

賀茂競馬は、平安時代より九一七年間続く伝統的な馬の神事です。寛治七年（一〇九三）に堀河天皇が宮中で催されていた競馬会式を上賀茂神社に移されて以来、我々の祖先が脈々と受け継いで来ました。今年も、五月一日に足汰式、五日に賀茂競馬を実施します。実施には多くの会員の参画が不可欠です。特に勇猛果敢な乗尻は乗馬技術習得までに時間がかかります。小中学生で馬に興味がある方は一度見学に来てください。そのほか現在、賀茂競馬の国指定無形民俗文化財登録に向けた活動を行っています。

葵歌壇

冷泉家玉緒会所属

上賀茂 北大路 和子

春風

あしひきの山の草木の揺れやます
春のためしとあらし吹くらん

戸

うくひすの笹のとほきを通し吹く
しつけき朝のねさめの床に

水

みたらし川明神川と名を変えて
わか背戸流る水清らなり

都

さくら咲く都に春はうららなり
あと幾度の花の逢ふ瀬そ

『賀茂祢宜神主系図』

データベースの作成

山本 宗尚

同族会所蔵国指定重要文化財『賀茂祢宜神主系図』（以下、単に系図）のデジタルデータベース化を進めています。これまでもいくつかの系図謄写本や刊行本、マイクروفイルム複写物をはじめ、近年頒布されたCDやDVDで系図を辿ることができたものの、名前を検索するには大きな労力が必要でした。その上、古文書に記述される名前は受領名のみであることも多く、名前の特定は困難を極めていました。

そこで、関東支部芝宏至会員が中心となり、系図の記載事項をデジタル入力する作業を進めてきました。対象は新古系図の本巻を除く十六流各巻に記載された者全員で、安土・桃山時代から江戸時代をほぼカバーするものです。表は各流で集計した登録人数で、全てを合わせると四千人を越える人数となります。当初は社家の名字や家名を辿る目的で作業されてきたものですが、人名と卒年月日、卒年齢のみならず、賀茂社官位・社司・地下官人・賞罰・事件の履歴にも入力項目を拡張してきました。

このデータベースが完成することにより、容易に賀茂社氏人を検索できるシステムが構築され、今後進むであろう賀茂社に関する

研究への便宜に資することができま。また、コンピュータを用いた統計解析を行うことで、近世賀茂社家の実態の理解もより一層進むことが期待されます。現在は校訂作業とともに、より効率的なリレーショナルデータベースへの移行を進めており、webによる検索システムの構築や、データベースの公開を予定しています。データベースの詳細は、今号の『みたらしのうたかた』を御覧ください。次号以降、近世賀茂社家の基本統計調査（例えば平均年齢の推移や長男誕生年齢の分布など）の結果を報告してまいりますのでご期待ください。

葵俳壇

ひまわり俳句会主宰

西池冬扇（氏裕）

賀茂御神楽・早韓神・

人長舞を観て三句

山城に神降ろす声底冷えて

伶人は日輪を背に冬紅葉

御神楽を舞い納めたる人の顔

ひまわり俳句会誌編集長
西池みどり

雪螢

残照の一闪に揺れ秋桜

冬浅し行場は木の根這うばかり

庭師去り漂っている雪螢

俳句雑誌ひまわり平成二〇年一月号より

第8回神山奉仕

8回目の奉仕祭は平成21年11月21日正午から行われた。先ず全員揃って本殿前でお祓いを受け神山へ向かう。時々晴れる空模様ではあったが紅葉の道を胸いつぱい山の空気を吸いながら山頂の磐座をめざす。

前回の奉仕から半年の間に堆積した落ち葉や雑木を取り除き、注連縄を張りめぐらす。次いで磐座の前に設えた祭壇に神饌と玉串を供え全員で奉仕奉告を終える。上古、我々の先祖もここで祈りや誓いをしたことを偲び感無量であった。今回も奉仕が出来た喜びをかみしめながら4時半下山した。



この磐座は我々賀茂氏のアイデンティティであり賀茂社諸祭祀の原点であることは言うまでもない。この原点を時代が如何に変わろうともいつまでも神聖な状態に保持するのは我々の本来的役目でなからうか。

当日の参加者は岡本陽己、白藤華子、西池俊二、西池成晃、藤木襄治、藤木琢也、堀内義晃、堀川潤、堀川三恵子、山本武久、和田珠子の各氏。

第9回は3月13日（土）12:00社務所前集合
多数のご参加をお願いいたします。

会 務 報 告 理 事 会

I 第53回理事会 (出席11名、欠席2名)

平成21年1月24日 (土)

西池理事長より平成21年度活動方針(案)について以下のことを決定した。

- ① 会員の結束を強め、同族会の主体性を強化する。
- ② 現行活動を一層活発化し組織能力増加させ諸課題を解決する。
- ③ 賀茂社との連携(特に遷宮祭)を強化する。
- ④ 新公益法人法への発展的対応。

- (1) 平成21年度予算の件
藤木琢也常務理事より説明。
競馬会に関する記念品の費用(雑費)の処理を広報事業費とし、競馬委員会の管理にすべきとの意見、来年度から科目を変更する。
- (2) 第16期人事評議員に関する件
評議員候補者に就任承諾段階で実績を勘案し重任の適否を決定すべきで、結果を臨時理事会で報告。
- (3) 賀茂競馬に関する件(堀川理事報告)
第5回競馬委員会議事の報告
 - ① 賀茂競馬の商標登録について。
 - ② 保存会の見直し。
 - ③ 無形文化財としてランクアップ。
 - ④ 「菖蒲の根合わせ」解説。
 - ⑤ バックアップ体制。
 - ⑥ 所役、乗尻メンバー。
 以上の項目を即座に着手する。
- (4) 新会員入会審査の件
西池俊二氏入会承諾。

報告事項

- ① 第42回式年遷宮奉賛関係氏子組織状況。
- ② 同族会の遷宮奉賛金1億円目標。
- ③ 財団法人改組準備委員の決定。
- ④ 北大路魯山人石碑除幕式、3月22日(日)の案内を役員に出す。

II 第54回(臨時)理事会 (出席13名)

平成21年4月8日(日)

- (1) 第16期理事長選任の件
西池成晃理事長以下全員重任が決定。
- (2) 第16期評議員確認の件
辞退者(市芳明・西池成清・山本夏雄3氏)を除き20名の重任決定。
- (3) その他

本財団の公式ホームページのURLは右記のとおりです

III 第55回理事会 (出席8名、欠席5名)

平成21年6月6日(土) 10:00~

- (1) 平成20年度事業報告と決算の件
西池理事長より事業報告と、藤木常務理事より決算報告次いで松田監事より監査報告が行われた。
- (2) 平成21年度「賀茂競馬」総括の件
堀川理事より平成21年度賀茂競馬まとめの説明。今後「賀茂競馬行事関連業務に会員子女の参加」が決まった。
- (3) 報告事項
 - ① 賀茂社田中宮司昇格祝賀会の実施。
 - ② 各種提案
 - イ. 祖先祭内容改善
開催日を10月の第3日曜日。
出席者の会費制。等
 - ロ. 関東支部岡本光正氏提案「上賀茂神社同族会子弟学校(案)」及び同族会家族の子息誕生による登録制度の方針。
 - ハ. メディアの近況
NHK放映予定特別番組「葵祭り関係」
21.7.20・AM8:35~8:55。

IV 第56回理事会 (出席13名)

平成21年10月4日(土)

- (1) 評議員人事の件
浦野邦夫評議員の辞任依頼有り、承認。
理事長より中大路平頭候補の承認を取る事とした。
- (2) 平成22年活動方針とスケジュールの件
「活動方針」
 - ① 会員の結束を強め、同族会の主体性を強化する。
 - ② 現行活動を一層活発化し組織能力増による諸課題を解決する。
 - ③ 賀茂社との連携を強化する。
 - ④ 新公益法人法への発展的対応。
 - ⑤ 熱意ある会員増を図る。
 上記に沿って具体的活動項目が決められた。
- (3) 新会員入会審査の件
野村清洋・岡本陽己の2名承認。



御殿老頭(賀茂)の御
下賜された御蔭の
御蔭の御蔭の御蔭
の御蔭の御蔭の御蔭

会 務 報 告 評 議 員 会

I 第49回評議員会 (出席20名、欠席3名)

平成21年2月8日(日)

- (I) 平成21年度活動方針
第55回 理事会参照。
西池理事長より特に遷宮祭奉賛への積極的協力として会員数上は会員当たり50万円となるが、休眠的不活会員の存在を考えれば会員1人当たり60万円相当の考慮が必要との事である。
- (2) 平成21年会務スケジュール
西池理事長より趣旨説明。
特に賀茂社創建氏族として特別許可されている社叢神山奉仕は春秋2回、3月15日(日)と11月21日(土)の2回を計画だが雨天中止も止むを得ないが年1回は実施したい。
- (3) 平成21年度予算の件
第53回理事会(1)参照。
- (4) 第16期人事(理事・監事)に関する件
西池理事長より同族会の喫緊課題(法人改組、遷宮)を勘案し、15期の理事及び監事全員の留任を望む旨の説明有り、全員の承認を得た。
- (5) 「賀茂競馬」に関する件
①商標登録、②保存会、③無形文化財、④新設業務「菖蒲の根合わせ解説」、⑤バックアップ体制、⑥所役、乗尻等メンバー
市聡頭評議員(競馬会委員)より「第5回競馬委員会議事録」に基づき①、③についての作業の開始、「傷害保険の見直し」の説明。競馬会の知名度向上、第三者の権利乱用防止の為の商標登録、規律と自覚の為のユニフォーム作成、と前進的行動計画の解説があった。
- (6) 入会審査
西池俊二・山本義浩の2名、資格基準に該当し承認。
報告事項 第53回理事会参照。

II 第50回評議員会 (出席12名、欠席2名)

平成21年6月6日(土) 13:30~

- (1) 平成20年度事業報告及び決算の件
第55回理事会(1)参照。
- (2) 平成21年度「賀茂競馬」の総括
第55回理事会(2)参照。
- (3) 報告事項
賀茂社田中宮司神職身分特級昇格。
他第55回理事会(3)参照。

III 第51回評議員会 (出席10名、欠席4名)

平成21年10月11日(日)

- (1) 平成22年活動方針
第55回理事会(2)参照。

- (2) 平成22年活動スケジュール
スケジュール表の配布有り、これに基づき実施する。
・2月実施の競馬合同会議は競馬委員会で日程を決める。
・系図曝涼の最適時期について今後山本宗尚評議員を中心に研究する。
- (3) 新会員入会審査の件
第55回理事会(3)参照。
報告事項(理事長より)
- ① 評議員人事
第55回理事会(1)参照。
- ② 予算執行状況
競馬CD売り上げ等の収入有るも支出も増加し、昨年並みの状況である。
- ③ 遷宮奉賛状況
役員は知人関係に極力PRして欲しい旨の依頼があった。
- ④ その他
競馬委員会活動状況報告が市聡頭副委員長よりあった。

平成22年 上半期の会務と行事

[1] 会議予定『場所：賀茂社』

- ① 理事会
・第57回：1月10日(日) (済)
・第58回：6月5日(日)
- ② 評議員会：
・第52回：1月10日(日) (済)
・第53回：2月6日(土) (済)
・第54回：6月13日(日)
- ③ 合同事務局会議
・第76回：1月31日(日) (済)
・第77回：5月16日(日)
・第64回会議 9月 9日(日)
・第65回会議 12月 9日(日)

[2] 関東支部総会

7月4日(日)

[3] 行事予定

- ① 賀茂競馬所役奉仕
・2月6日：全体会議
・5月1日：足汰式
・5月5日：菖蒲根合の儀・競馬会神事
- ② 賀茂祭奉仕
・5月15日
- ③ 第9回社叢神山奉仕奉告祭
3月13日(土) 11:30
場所：賀茂社西ノ鳥居前

所役奉仕者

賀茂祭

山城使 山本正信
 奉行属 藤木琢也
 檢非違使尉 岡本 修
 馬寮使 山本浩久
 主水司 西池恒氏
 先駆後見 岡本正和
 山本紀博
 先駆 市 聡頭 市 法明
 浦野邦洋 山本浩矢
 山本幸大 馬場紘之信
 以上賀茂祭奉仕者計13名

競馬会

所司代 西池恒氏
 目代 山本武久
 陰陽代 藤木琢也
 左念人 堀内保丸
 扶持 芝 清昌
 右念人 戸田保輝
 扶持 藤木保久
 左方後見 岡本正和
 浦野邦夫
 右方後見 岡本清仁
 山本紀博
 頓宮預 藤木秀昭
 左方肝煎 山本浩久
 右方肝煎 山本正信

乗 尻
 一番 山本宗尚 浦野邦洋
 二番 山本浩矢 岡本清虎
 三番 中大路竜直 市 法明
 四番 藤木孝頭 岡本陽己
 五番 堀内保大 市 英頭
 六番 市 聡頭 山本幸大

催奉行 市 忠頭
 奉行属 堀川 潤
 左方催方 岡本 修
 同補 岡本雅仁
 右方催方 堀川経史
 同補 山本智也
 催方補
 市 芳明 岡本安正
 西池隆造 藤木襄治
 堀内邦保 芝 紀清
 松田一彦
 解説 梅辻 諄 堀川三恵子
 記録 岡本清信 堀内義晃
 以上競馬会奉仕者計 43 名



| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-----|------|------|------|------|
| 山本浩久 | 黄 衣 | 山本智也 | 堀川 潤 | 藤木竜直 | 市 聡頭 | 岡本 修 | 山本武久 | 山本浩矢 | 堀内保大 | 浦野邦夫 | 西池恒氏 | 山本宗尚 | 藤木孝頭 | 岡本正和 | 堀内保丸 | 浦野邦洋 | 岡本陽己 | 岡本清仁 | 田中宮司 | 岡本清虎 | 市 英頭 | 山本紀博 | 戸田保輝 | 市 法明 | 山本幸大 | 藤木秀昭 | 市 忠頭 | 黄 衣 | 堀川経史 | 藤木琢也 | 山本正信 | 芝 清昌 |
|------|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-----|------|------|------|------|

平成廿一年賀茂競馬



右方乗尻衣紋



左方乗尻衣紋

編集後記

残寒厳しい日が続き体調を
 考えながらの中で編集作業を
 進めようやく纏まりお届けす
 ることが出来ました。
 休刊中にお預かりした原稿
 と最近寄稿をお願いした原稿
 を整理するなど案外日数がか
 かったこともあり発行目標
 日より遅れてしまい恐縮で
 す。
 今回の編集作業から、若手
 会員の参加が得られお互いに
 遠隔の地にあってもパソコン
 を活用し原稿のやり取りやレ
 イアウト、校正等も随分容易
 に出るようになりました。
 さらにパソコンスキルを磨き
 効果を出すとともに今後は紙
 面の充実に重点を移してゆき
 たく思っています。

(神鴨子)